

第 3 9 回北海道高等学校弓道選抜大会南北海道大会
兼第 3 6 回全国高等学校弓道選抜大会南北海道地区予選会

大 会 要 項

- 1 主 催 北海道弓道連盟
- 2 共 催 北海道高等学校体育連盟
- 3 後 援 北海道 公益財団法人北海道体育協会
小樽市 小樽市教育委員会 小樽体育協会
- 4 主 管 北海道弓道連盟中央地区 北海道高等学校体育連盟弓道専門部
- 5 協 力 小樽支部各高等学校弓道部 小樽弓道連盟
- 6 期 日 平成 2 9 年 9 月 3 0 日 (土)・10 月 1 日 (日)
- 7 会 場 小樽公園弓道場
(〒047-0024 北海道小樽市花園 5 - 1 - 1 Tel 0134-25-1340)
- 8 競技日程 **【1 日目】 9 月 3 0 日 (土)**
 - 1) 専門委員打合せ (弓道場役員室) 8:10～ 8:30
 - 2) 集合・審判打合せ (弓道場) 8:30～ 9:00
 - 3) 監督主将会議 (弓道場) 9:00～ 9:30
 - 4) 開会式 (弓道場矢道集合) 10:00～10:20
 - 5) 競技 (個人予選 2 立) 10:30～14:00……立射
(団体予選 1 立) 14:00～15:30……立射
(個人決勝) 15:30～16:30……坐射
 - 6) 個人表彰式 16:40～17:00**【2 日目】 1 0 月 1 日 (日)**
 - 1) 集合・審判打合せ (弓道場) 8:10～ 8:30
 - 2) 競技 (団体予選 2 立) 9:00～11:30……立射
(抽選・的替) 11:30～12:00
(団体リーグ戦) 12:00～14:00……坐射
 - 3) 閉会式 14:15～14:30
- 9 参 加 料 1 チーム 10,000 円 個人 2,000 円
(同一選手が団体戦と個人戦の両方に登録している場合は、団体参加料だけでよい)
- 10 編 成
 - 1) 団体の部は、選手 3 名・補欠 2 名以内・介添生徒 1 名・監督 1 名とする。
 - 2) 個人の部は、選手 1 名・介添生徒 1 名・監督 1 名とする。
 - 3) 団体の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、4 校以下の場合 1 校、5 校～8 校の場合は 2 校、9 校～1 2 校の場合は 3 校、1 3 校～1 6 校の場合は 4 校、1 7 校～2 0 校の場合は 5 校、2 1 校以上の場合は 6 校とする。
開催地区は、他に男女各 1 校ずつ参加できるものとする。
 - 4) 個人の部は、男女とも高体連区分による各地区大会の参加校が、4 校以下の場合は 4 名、

5校～8校の場合は6名、9校～12校の場合は8名、13校～16校の場合は10名、17校～20校の場合は12名、21校～24校の場合は14名、25校以上の場合は16名とする。

- 11 参加資格
- 1) 選手は、学校教育法第1条に規定する高等学校（中等教育学校後期課程を含む）に在籍する生徒であること。
 - 2) 地区弓道連盟、並びに北海道高等学校体育連盟に加入している高等学校の生徒であること。なお、大会参加時には全日本弓道連盟登録ID番号が必要である。
 - 3) 平成29年度在籍学年が第1学年・第2学年であること。ただし、同一学年での出場は1回限りとする。
 - 4) 転校後6ヵ月未満の生徒は出場できない。（外国人留学生もこれに準ずる）ただし、一家転住の場合はこの限りではない。
 - 5) 全日制・定時制・通信制の混成、及び男女の混成は認めない。
 - 6) 統廃合の対象となる学校については、当該校を含む合同チームによる大会参加を認める。
 - 7) 出場する選手はあらかじめ健康診断を受け、在学する学校の校長の承認を必要とする。
- 12 引率責任者
- 引率責任者は該当校の教員で、監督は学校長の認めた教職員とする。ただし、引率責任者と監督が同一の場合は教員とする。
- 13 競技内容
- 1) 種 目 近的競技
 - 2) 種 別 男子の部・女子の部
 - 3) 種 類 団体・個人
 - 4) 規 格 的は霞的（36 cm）を使用する。
- 14 競技規則
- （公財）全国高等学校体育連盟弓道競技規則、審判部細案および北海道高体連弓道競技規則による。
- 15 競技方法
- 1) 団体競技は次の通り行う。
 - ① 1団体3名とし、2名は補欠選手とする。なお、先発メンバーは登録順の3名とする。
 - ② 予選は1人12射、合計36射を行ない、上位4チームを通過とする。
（同中の場合は1人1射ずつ、合計3射の競射を行なう。）
 - ③ 決勝は1人4射、合計12射のリーグ戦とし、組み合わせは抽選とする。
（同中の場合は予選に準じる。）
 - ④ 順位決定は次による。
 - イ) 勝ち点の多いチーム。
 - ロ) 勝ち点の同じ場合は、リーグ戦での合計的中数による。
 - ハ) ロ) により決しない場合は、当該チーム同士の対戦成績による。
 - ニ) ハ) により決しない場合は、予選での合計的中数による。
 - ホ) なおかつニ) により決しない場合は、1人1射の競射による。
 - 2) 個人競技は次の通り行う。
 - ① 予選は、1人8射を行ない、男女とも5中以上を予選通過とする。
 - ② 8射中5中以上の者が出なかった場合は入賞者なしとするが、全国大会出場者を決める場合は、的中最上位者とする。また、同中者が出た場合は、射詰競射により決定する。
 - ③ 決勝は1射ずつの射詰競射により順位を決定する。的中を失った同位者の場合は、優勝及び全国出場者を決する以外は遠近競射により順位を決定する。競射においては、原則として9射目以降は24cm 星的を使用する。遠近競射による順位決定は射詰競射決定後に行う。
 - 3) 競技順序は次の通り行なう。

1日目	①個人予選1立目（女子から実施する。）	②個人予選2立目
	③団体予選1立目	④個人決勝
2日目	①団体予選2立目	②団体予選3立目
	③団体リーグ戦	

- 4) 矢返しは、4ツ矢が終わるごとに行ない、1本ごとの矢返しは行なわない。替矢は各選手2本用意すること。団体リーグ戦で同中競射になった場合の1本目、個人決勝の5本目、筈の損傷で矢番えが出来ないとき等に使用する。
- 5) 取矢を必ず行なうこと。
- 6) 矢番え後の筈こぼれは無効とする。
- 7) 怪我等で坐射・取矢ができない場合、参加申し込み時に所定の申請書を添えること。
- 8) 競技時間の制限（団体競技のみ実施する。）
 - ①本座において、進行係の合図によって始まり、最後の射手の離れで終わる。
 - ②競技は個人戦の予選および団体戦の予選は立射とする。また、個人戦の決勝および団体戦のリーグ戦は坐射とする。1団体12射の行射制限時間を立射は6分以内、坐射7分以内とし、立射は5分30秒、坐射6分30秒で予鈴の合図をする。
 - ③弦切れ、その他の事故が生じても時間の延長はしない。ただし、審判委員の指示により競技が停止した時間は制限時間から除外する。追い越し発射は認めない。
 - ④個人競技および順位決定戦等の時間制限のない場合は、「弦音打起し」の競技の間合いを原則とする。
 - ⑤その他については進行係及び審判の指示に従うこと。
- 9) 監督は替矢・替弦を持って控えに入る。
- 10) 招集
 - ア 第3控において、選手・監督の確認、ゼッケンおよび服装、弓具の点検をする。
 - イ 第3控から第2控へ移動する際にいない選手は「その立」に限り失権とする。そのために団体に欠員が生じても欠員のまま団体とする。
 - ウ 監督については12で定めた者とする。大会役員の関係上やむを得ない場合は生徒に代行させることも可とする。

- 16 選手の交代
- 1) 立ち順は、参加申込書に記載された1番から3番までを1団体とし、選手の交代は登録者の中から3回まで認める。監督主将会議の際から受け付ける。（交代した選手の再出場は認める）ただし、決勝リーグ進出校決定のための射詰競射において交代は認めない。
 - 2) 選手の交代の届け出は所定の用紙に記入し、第3控に入る（次の競技の30分前）までで監督より交代受付へ届け出ること。
 - 3) 1回で2人を交代してもそれを1回と数える。また、交代後、再び選手として出場する時は、前の立ち順にこだわらない。
 - 4) 3回の交代をした後、選手に事故が生じ欠場する場合は、欠員のまま団体とする。

17 競技上の諸注意

1) 弓具

- ア 選手は全国高等学校体育連盟弓道競技規則第13条に定められた弓具を使用すること。
- イ 押手掛け（指押手を含む）以外の補助具は原則として認めない。
- ウ 磔の紐は危険防止のため小さく結び、止め具の使用は禁止する。
- エ 弓および矢に照準・目印をつけてはならない。
- オ 伝統的な押手補助具や傷部保護のための包帯、テーピングを除き、押手にはその他のものをつけてはならない。
 - *伝統的な押手補助具としては、押手磔（拇指、人差指の2本指と拇指のみの1本指）がある。
 - *キネシオテープについては、テーピングとみなし使用を認める。
 - *サポーターの使用は肘のみ認める。色は、白・黒・紺・ベージュとする。
 - *手首のサポーターやテーピングの使用は禁止する。

2) 服装

●選手

- ア 弓道衣は白、袴は黒または紺の無地とし、白足袋を着用する。
- イ 弓道衣のアンダーシャツは白・黒・紺の無地のものとし襟付き・ハイネックは不可とする。
- ウ 弓道衣に校名・校章および都道府県のシンボルマークを入れる場合は、片袖に限る。ただし、大きさは、縦横10cm以内にする。

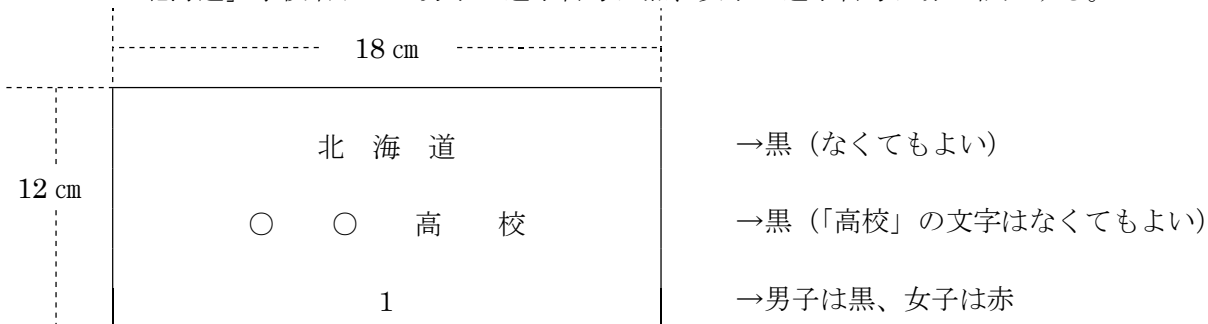
- エ 鉢巻を使用する場合は、無地で長さは肩までとする。また、校名・校章・氏名に限り入れてもよいが場所は鉢巻の端とする。
- オ 胸当ては無地とし、校名・校章・その他を入れてはならない。男子の胸当ての使用は認めないが、道着の下に装着する事までは咎めない。
- カ リボン・ピアス等の装身具類は着用しない。髪留めは黒・茶ゴム程度とする。

●監督

- ア 監督は監督章を首から下げる。
- イ 射場内での服装は、品位を保ち、短パン、ミニスカートの類は着用しない。
- ウ 射場内での素足は厳禁とし、靴下等を着用する。

3) ゼッケン

- ・選手は次によりゼッケンを着用する。
 - ア プログラムに登録された番号を表示したゼッケンを右腰前に付ける。ただし、ゼッケンの左端が体の中央になるようにする。
 - イ 選手の交代によりゼッケンを替えてはならない。
 - ウ ゼッケンの記載は横 18 cm、縦 12 cm の白の布を使用する。(ゼッケンをケースに入れることは可)
「北海道」学校名および男子の選手番号は黒、女子の選手番号は赤で記入する。



- 4) 体育館での壁・柱などを使用した弓張りは禁止とする。
- 5) 観覧席からのフラッシュ撮影は禁止する。
- 6) 応援は、的中時の「よし」の掛け声と皆中時の拍手のみとする。
- 7) 常に静粛な環境を維持するように相互に協力して下さい。
*その他、必要事項は、「必携」(全国高等学校体育連盟弓道専門部)を参照のこと。また、「必携」は大会時に持参すること。

18 表彰等 1) 表彰

- ①団体の部は、男女とも3位までとする。
- ②個人の部は、男女とも5位までとする。

2) 全国大会出場権

- ①団体の部は、男女優勝校が全国選抜大会への出場権を獲得する。および東日本高校弓道大会へは男女優勝校のほかには北北海道大会の成績によりさらに男女各1校が出場権を獲得する場合がある。
- ②個人の部は、男女とも2位までの者が全国選抜大会への出場権を獲得する。

19 申込方法 (プログラム作成の都合上、必ず以下のようにして下さい)(締切厳守をお願いします)

- ア 参加選手および参加料の明細を、所定の申込用紙に記入して、
 - ① メール送信での申し込みをお願いします。 9月19日(火) 厳守
 - ②職印を押した申込書(立射の選手がいる場合は申請書)を郵送すること。
ただし、メールの内容と記載内容が同じものであること。
 - ③参加料は「②」とともに現金書留で郵送してください。 9月22日(金) 厳守
- イ 坐射や取り矢ができない場合は、
 - ①先天的に身体的障がいがある場合は、参加申込書の備考欄にその旨を記入するとともに、「立射等の申請書」を添えて提出すること。
 - ②けが等によってできない場合は、事前に「立射等の申請書」を添えて提出すること。

なお、申し込み後についても、すみやかに行うこと。

③必ず事前に書類を提出すること。監督主将会議当日の口頭による申し込みは受け付けない。

- 20 申込先 ① メールアドレス kc@hokkaido-c.ed.jp
なお、メール送信を行う場合は小樽潮陵高校のホームページより申込書ファイルをダウンロードして下さい。
小樽潮陵高校HP URL <http://www.otaruchouryou.hokkaido-c.ed.jp/>
② 郵送先 〒047-0002 北海道小樽市潮見台2丁目1-1 TEL0134-22-0754
北海道小樽潮陵高等学校 南北海道弓道大会事務局宛（担当：田中崇志）
- 21 公式練習 会場 小樽公園弓道場 9月29日（金）11時00分～17時00分
*選手は試合用の服装（必ずゼッケンを装着）で練習をすること。お互いに節度を守ること。
*練習の際は、必ず監督などの責任のある方が射場内につき、危険防止に留意すること。
- 22 その他 1) 競技は団体予選まで3人立ち3射場で行い、団体決勝リーグ戦は3人立2射場で行います。3射場の場合は的間150cm、2射場の場合は180cmとなります。
2) 各支部大会の運営協力校は、支部大会のプログラム（全ての成績を記録したもの）、及び大会結果を 9月22日必着で、大会事務局と道高体連弓道専門部（市立函館高校高市先生）宛てに各1部ずつ送付して下さい。
3) プログラム作成の都合がありますので、参加申込・成績の送付は期日を厳守して下さい。
4) 入場行進は特に行ないません。開会式予定時刻までに矢道に集合して下さい。
5) 大会参加に関して提出される個人情報、本大会活動に利用するものとし、これ以外の目的に利用することはありません。
- 23 宿泊弁当 別紙にて日本旅行北海道小樽支店にお申し込みください。

競技上の諸注意（補足）

- 1 射場に入場後、弓具（弓、矢および弦等）が破損した場合は交換することができる。ただし替弓具が準備してある場合に限る。
- 2 次の矢は無効とし、「はずれ」として扱う。
 - ①矢番え完了（右手を腰にとった時点）後に、弦から筈がこぼれた矢。
 - ②打起し開始後引き直した矢。
 - ③同一射場において前の射手より先に射離した矢。ただし、前の射手が持ち矢を棄権した場合を除く。
 - ④団体競技で制限時間（本鈴）後に射離された矢。なお同時発射も無効とする。
 - ⑤故意に他チームの行射を妨害したと審判委員が判定した場合。（妨害を受けた選手の引き直しまたは射直しは認める。）
 - ⑥審判委員の注意を無視して行射した矢。
- 3 弦切れの場合、4本目を除き、選手は射位に跪坐し、射場進行係が弓を取りに来るのを待つ。弓を渡した後、切れ弦の処理をする。4本目の場合はならいのごとく処理し退場する。
替弦は原則として監督が張るものとする。
- 4 弓を取り落とした場合、射場進行係の指示に従い処理をする。
- 5 射位にある射手は口頭、またはその他の方法で助言を求め、または受け取ってはならない。射手が本座または射位で不必要な声を発したり、または他の射手に対して助言をしてはならない。
- 6 会場で不必要な声を発しないこと。観覧者は指定された観覧席から応援し、的中時の「よし」と皆中時の拍手のみとする。
- 7 矢を落し失権となった矢は、他の選手の妨げとならないように拾って自分の右側に置く。
- 8 的中数は看的の○×表示で示す。的中数に異議がある場合は、矢を抜く前に監督が射場進行係に挙手により申し出る。その後の申し出については受け付けない。
- 9 競技進行中における行射中止の指示は、的中前における赤旗の掲示と射場内における進行係の指示によって行うので、直ちに行射を中止すること。再開指示は赤旗を撤去、係が指示する。
- 10 同中競射および射詰の時、競射1本目は替矢とする。この時は一矢射終わったら自分の席に戻る。2本目以降の競射・射詰の矢は、矢返しをした矢を使う。競射は一矢射終わるごとに自分の席に戻る。
- 11 個人競技、退場口の進行係の指示があった場合は、第2控席に待機する。
- 12 個人競技決勝の射詰・遠近法による競射の退場は進行係の指示に従うこと。
- 13 競技場内に第1控席を設ける。道場外入場口に第3控席を設け、点呼、弓具の点検を行うので競技進行に合わせて集合する。監督も含め第2控席で点呼するまでに集合しない場合は失格とする。
- 14 第2控席では弓を立てて待機する。
- 15 監督は、監督章をつけて替矢・替弦を持参して入場する。
- 16 計時について、立射5分30秒（坐射6分30秒）の振鈴で予告し、立射6分（坐射7分00秒）の振鈴によってその後の矢を失権とする。振鈴は本部席のストップウォッチを基に行う。
- 17 矢返しは、玄関付近に設置した矢立てで行うので、速やかに回収すること。

18 競技本部は放送席とし、選手交代については交代受付に提出する。

※ 矢張り籐の長さが6 cm未満のもの、あるいは損傷し、セロテープなどで補修している等の弓は使用しないで下さい。(弓具点検の際に、競技上危険または目印とみなしうる場合は、ガムテープを貼る場合があります。)

当番地区からの連絡

- 1) 控室は土足厳禁となっています。ご協力ください。
- 2) 外靴は、配布するビニール袋に入れて控室まで持参して下さい。袋は帰りに箱に入れて下さい。翌日も使用します。出来るだけ、各チームで外靴用袋を用意してください。
- 4) 選手の控場所は、小樽市公会堂の張り紙がある場所です。飲食は控室でお願いします。時間帯によっては大変混雑することが予想されます。お互いに譲り合って使用して下さい。
- 5) 着替えは小樽市公会堂（能楽堂）を利用して下さい。
- 6) 控室の壁面を使って弓を張ることを禁止します。選手同士で肩を貸しあうなどして弓を張って下さい。その他の施設・備品の破損にも注意して下さい。
- 7) 観覧席ではマナーを守って、奇声を発したり騒がしくならないようお願いします。立入禁止区域には絶対に立ち入らないで下さい。
- 8) 巻藁は道場下の広場に設置します。譲り合って怪我をしないように注意して使用して下さい。各校持ち込みの巻藁も、道場下の広場に設置して下さい。(地図参照)
- 9) ゴミについては各自で持ち帰って下さい。なお、業者斡旋の弁当は渡された場所が回収場所となります。
- 10) 部旗の張り付ける場所はありません。
- 11) 観客席の場所取りはご遠慮ください。お互いに譲り合って使用して下さい。
- 12) 監督・コーチ・応援などの大人の皆さんへ……控室、道場付近、公園内は禁煙です。
- 13) 団体戦予選までは3人立3射場で行います。団体戦決勝リーグ戦は的替え後3人立2射場で行います。
- 14) フラッシュ撮影は高体連では認めていません。ご存知ない様子の観客がおいででしたら、一言声をかけて下さい。
- 15) 今大会は真円的を使用します。また的紙は裏に繊維の入ったビニールの紙を使用します。
- 16) 携帯電話の着信音は競技の妨げになります。マナーモードにするか、電源をお切り下さい。
- 17) 小樽公園弓道場の開館時間は8：00です。選手はそれ以前の入館ができません。
- 18) 各校監督・顧問は選手の健康管理の掌握、麻疹・インフルエンザ等への対応もお願いします。
- 19) 駐車場は市役所をご利用下さい。(大型バスは駐車できません。)今回は駐車場係を配置しません。事故のないように互いに譲り合ってください。